

DNAマーカーによる本県水稻奨励品種・適品種の相互識別技術

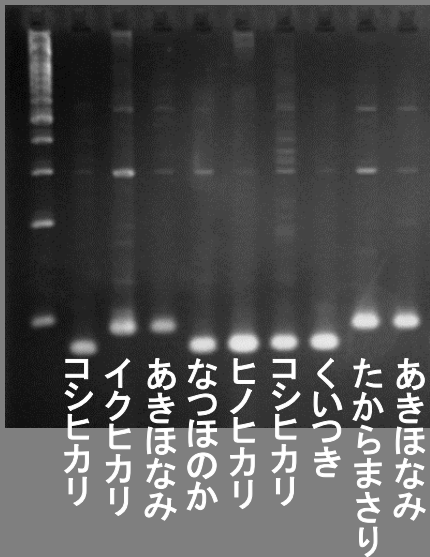
県育成の水稻品種「なつほのか」など奨励品種・適品種17品種を相互に識別可能

背景・目的

- ・県育成品種「なつほのか」や「たからまさり」などが近年、品種登録され、奨励品種・適品種に採用
- ・新品種の違法栽培の抑止，原原種や原種の異品種混入防止のために品種の相互識別技術が必要

成果の内容

○6種類のDNAマーカーで
17品種を相互に識別



6種の
結果

←A型 95bp
←K型 82bp

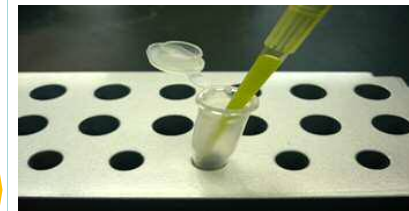
※遺伝子解析結果の例
(SSRマーカー: RM6872)

表 水稻17品種に対する6種の品種識別マーカーの遺伝子型

供試材料	SSRマーカーの種類					
	RM6329	RM1279	RM5704-2	RM3872	RM3625	RM6872
コシヒカリ	K	K	K	K	K	K
イクヒカリ	A	K	K	A	K	A
なつほのか	K	K	A	A	A	K
ヒノヒカリ	K	K	A	K	A	K
くいつき	A	K	K	A	K	K
たからまさり	A	K	A	K	A	A
あきほなみ	A	A	A	A	A	A
あきのそら	K	K	K	A	K	A
とよめき	A	K	K	A	A	A
さつま雪もち	A	A	A	A	K	A
彩南月	A	K	A	K	K	A
夢はやと	A	A	A	K	A	A
さつま黒もち	A	K	K	K	K	A
さつま赤もち	A	A	A	A	K	K
さつま絹もち	A	K	A	K	A	K
峰の雪もち	A	K	A	A	A	K
はなさつま	K	A	A	K	A	A

注) K型は「コシヒカリ」, A型は「あきほなみ」と同じ遺伝子型であることを示す。

葉, 玄米から約1日
で識別が可能



導入
メリット

- 育成品種の保護
- 育成品種の普及
- 違法栽培の抑止
- 種子生産の安定

期待される効果

水稻品種の違法な栽培を効果的に抑止し, 原原種や原種等の安定生産に寄与

普及対象・範囲 水稻産地